Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 14第44号
2015年（平成27年） 2月20日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電話 （03）3534-7411（代）
FAX （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ http://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

NYMEXのWTIは、2/5～2/11は、50ドルを挟んだ荒い値動きとなり、48～52ドルの間で推移した。

12日は、米経済指標はさえなかったものの、米株高やドル安による割安感などから値上がりした。3月限の終値は、前日比2.37ドル高の51.21ドルで終了した。

13日は、この日発表された米国の稼働リグ数が、前週よりさらに84基減少し3年半振りの低水準となったこと、石油大手の投資計画縮小の発表も相次ぎ、需給緩和懸念が後退した。電子取引では一時53.43ドルを記録したが、3月限は、前日比1.57ドル高の52.78ドルで終了した。

連休明け17日は、ドル安の進行やブレント原油が年初来高値を更新したことなどにつられて値上がりした。3月限の終値は、前週末比0.75ドル高の53.53ドルとなった。

18日は、連休で一日発表の遅れるEIA(米エネルギー情報局)の週報で、原油在庫が増加するとの観測が強まったこと、ドルが値上がりしたことなどから、反落した。3月限の終値は、前日比1.39ドル安の52.14ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（4月渡し）は、海外市場での原油価格上昇を受けて前週は50～55ドルで引き続き堅調に推移した。12日は53.60ドル、13日は56.80ドル、週明け16日は58.00ドルと欧米市場の堅調傾向を受け続伸した。17日は58.50ドル、18日は59.00ドルとさらに値上がりした。

為替は、前週は117～118円台と一進一退が続いた。12日は120.20円と円安が進んだが、その後13日は119.03円、週明け16日は118.59円、17日は118.35円とやや円高気味に推移、18日は119.25円と再び円安に転じた。

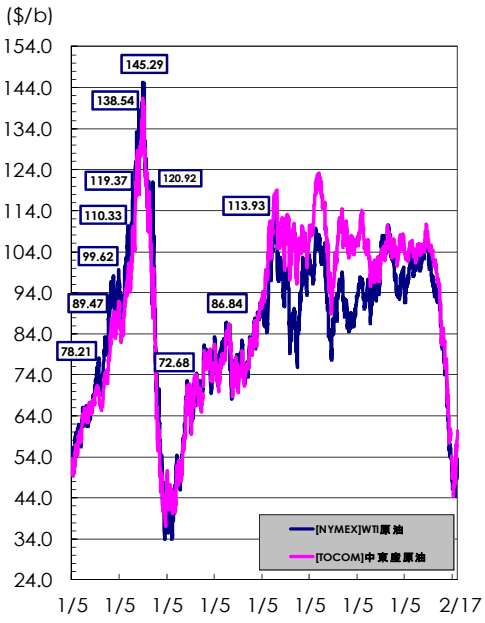
財務省が6日発表した貿易統計速報（旬間ベース）によると、1月中旬の原油輸入平均CIF価格は、47,258円/klとなり、1月上旬を4,409円下回った。40,000円/kl台は、2011年2月中旬以来。ドル建てでは62.50ドルで前旬比6.22ドル安。為替レートは1ドル/120.20円。為替の120円台は、2008年8月上旬以来。

また19日に発表した貿易統計速報（旬間ベース）によると、1月下旬の原油輸入平均CIF価格は、46,024円/klとなり、1月中旬を1,234円下回った。ドル建てでは61.92ドルで前旬比0.58ドル安。為替レートは1ドル/118.18円。さらに同日発表した貿易統計速報（月間ベース）によると、1月の原油輸入平均CIF価格は、47,895円/klとなり、12月を11,059円下回った。ドル建てでは63.83ドルで前月比15.30ドル安。為替レートは1ドル/119.29円。

主要元売会社の2月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、2.0円から5.0円の値上げとなった。原油価格が上昇し、原油コストが値上がりしたことを反映したものとみられる。

そのような中で、16日時点の小売価格は、ガソリンが1.9円値上がりの135.4円、軽油も1.9円値上がりの115.9円、灯油は0.9円値上がりの82.1円となった。ガソリン・軽油は30週振りの値上がり、灯油も30週振りの値上がり。原油コストが値上がりし、仕切り価格も値上げ、小売価格にもその影響が及んだ。値上がりは昨年7月14日以来。

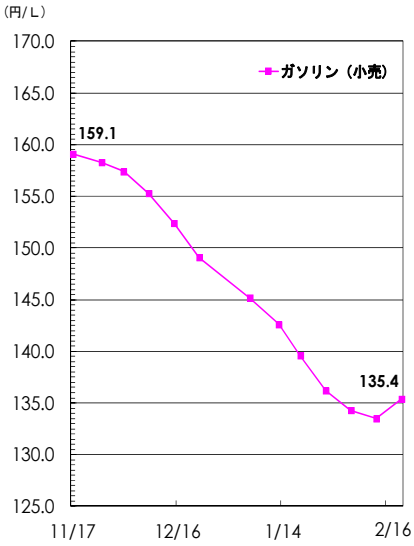
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	2/8 ～ 2/14	4,049	▲ 29	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	92.2	▲ 0.7	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	2/14	14,541	▲ 263	▲ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	2/16	59.32	▲ 2.81	▼ -46.8
	WTI原油 (NYMEX)	（$/bbl）	2/17	53.53	▲ 0.67	▼ -48.9
	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	1月下旬	61.92	▼ -0.58	▼ -51.59
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	46,024	▼ -1,234	▼ -28,606
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	118.18	▲ 2.02	▼ -13.65
	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	2/16	119.59	▲ 0.32	▼ -17.14



（単位：千kl、円/kl）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/8 ～ 2/14	1,045	▼ -43	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	993	▼ -84	▲ –
	輸出		〃	57	▲ 32	▼ –
	在庫		2/14	1,742	▼ -4	▼ –
価格	業転［陸上ローリー 4地区平均］	(RIM)	2/10 ～ 2/16	53.5	▲ 4.3	▼ -25.6
	先物［期近物/終値］	(TOCOM/東京湾)	2/10 ～ 2/16	55.7	▲ 2.3	▼ -23.4
		(TOCOM/中部)	2/16	56.7	▲ 1.7	▼ -22.3
	小売［週動向］	(資エ庁公表)	2/16	135.4	▲ 1.9	▼ -22.8

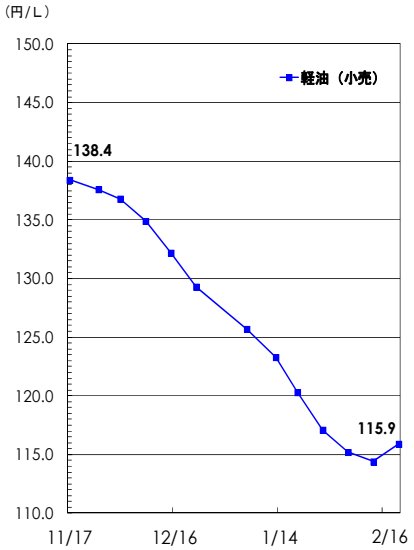
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/kl）

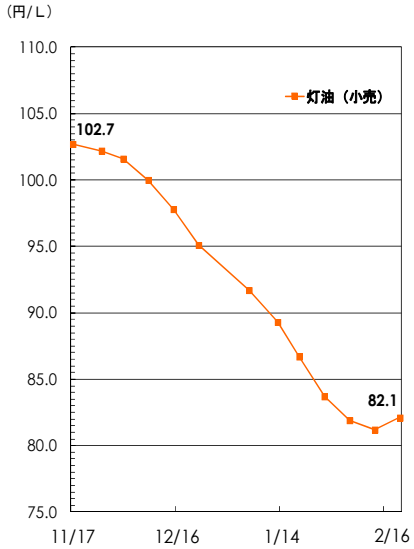
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/8 ～ 2/14	795	▼ -29	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	655	▼ -94	▲ –
	輸出		〃	195	▲ 84	▲ –
	在庫		2/14	1,558	▼ -54	▼ –
価格	業転［陸上ローリー 4地区平均］	(RIM)	2/10 ～ 2/16	48.7	▲ 4.1	▼ -29.1
	先物［期近物/終値］	(TOCOM/東京湾)	2/10 ～ 2/16	54.9	▲ 2.2	▼ -24.8
		(TOCOM/中部)	2/16	–	–	–
	小売［週動向］	(資エ庁公表)	2/16	115.9	▲ 1.5	▼ -22.9

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/kl）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/8 ～ 2/14	503	▲ 25	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	634	▲ 20	▼ –
	輸出		〃	41	▲ 41	▲ –
	在庫		2/14	1,815	▼ -172	▼ –
価格	業転［陸上ローリー 4地区平均］	(RIM)	2/10 ～ 2/16	52.2	▲ 4.2	▼ -25.6
	先物［期近物/終値］	(TOCOM/東京湾)	2/10 ～ 2/16	55.5	▲ 2.3	▼ -23.1
		(TOCOM/中部)	2/16	55.5	▲ 1.1	▼ -22.5
	小売［週動向］	(資エ庁公表)	2/16	82.1	▲ 0.9	▼ -21.8



■ 関連情報

1　海外/原油

18日のWTI原油先物相場は、連休のため1日に遅れで19日に発表となるEIA(米エネルギー情報局)の週報で、原油在庫が310万バレル増との市場の事前予想が出されたことから、終日軟調な展開となった。また、ドル高の進行も値下がり要因となった模様。朝方、カリフォルニア州の製油所で事故が発生したことからやや堅調になったものの、すぐに押し戻された。3月限は、前日比1.39ドル安の1バレル52.14ドル、4月限も1.47ドル安の52.82ドルだった。

EIAによると、2月17日時点のガソリンの小売価格は全米平均で8.3セント値上がりし、1ガロン2.274ドル(71.8円/ﾘｯﾄﾙ)となった。ディーゼルは3.0セント値上がりの2.865ドル(90.4円/ﾘｯﾄﾙ)。ガソリンは、3週連続の値上がり、軽油は2週連続の値上がり。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2月8日～14日に休止したトッパー能力は、3.5万バレル/日と先週から変わらず。（全処理能力は394.7万バレル/日）。

原油処理量は404.9万kl、前週に比べ2.9万kl増。前年に対しては、0.6万kl減少。トッパー稼働率は92.2%と前週に対し0.7ポイント増加。前年に対しては9.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べジェット、灯油、C重油が増産して、他の油種で減産となった。ガソリン/4.0%減、ジェット/25.3%増、灯油/5.2%増、軽油/3.5%減、A重油/11.8%減、C重油/5.3%増。C重油の輸入は0.5万kl（前週比0.5万kl増）。輸出は軽油が19.5万kl（前週比8.4万kl増）。

出荷（販売量）は前週比ではジェット、灯油で増加、その他の油種で減少となり、前年に対してはガソリン、軽油、C重油で増加となった。

原油価格上昇が一進一退する中、各石油製品の仮需も一段落し、ガソリンは99.3万kl（対前週7.8%減）と再び100万klは割ったものの、3週連続の前年超えとはなっている。ジェット10.5万 kl（対前週52.2%増）、灯油63.4 万kl（対前週3.3%増）、軽油65.5万 kl（対前週12.6%減）、A重油30.7万 kl（対前週20.3%減）、C重油47.9万 kl（対前週2.4%減）。

（単位：千KL）

	今週 (2/8 ~ 2/14)	前週 (2/1 ~ 2/7)	前週比	
ガソリン	993	1,077	▼ -84	(-8%)
ジェット燃料	105	69	▲ 36	(52%)
灯油	634	614	▲ 20	(3%)
軽油	655	749	▼ -94	(-13%)
A重油	307	385	▼ -78	(-20%)
C重油	479	491	▼ -12	(-2%)
合　計	3,173	3,385	▼ -212	(-6%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

2月14日時点の在庫はすべての油種で取り崩しとなった。また前年に対してもジェットを除き、その他すべての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは174.2万kl、前週差0.4万kl減。前年に対し34.1万kl少ない。

灯油は181.5万kl、前週差17.2万kl減。前年に対しては9.2万kl少ない。

軽油は155.8万kl、前週差5.4万kl減。前年に対しては25.3万kl少ない。

A重油は76.0万kl、前週差2.0万kl減。前年に対しては3.8万kl少ない。

C重油は206.3万kl、前週差7.1万kl減。前年に対しては11.0万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (2/14)	前週 (2/7)	前週比	
ガソリン	1,742	1,746	▼ -4	(-0%)
ジェット燃料	918	960	▼ -42	(-4%)
灯油	1,815	1,987	▼ -172	(-9%)
軽油	1,558	1,612	▼ -54	(-3%)
A重油	760	780	▼ -20	(-3%)
C重油	2,063	2,134	▼ -71	(-3%)
合　計	8,856	9,219	▼ -363	(-3.9%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

2月10日から2月16日までの週間原油コストは、原油価格の値上がりと円安の結果、小幅な値上がりだった。

陸上スポット価格は、ガソリン106~108円台、軽油48～49円台、灯油50～53円台だった。海上スポット価格は、ガソリン107～109円台、軽油49～56円台、灯油55～56円台である。先物価格はガソリン108～110円台、軽油54～56円台、灯油54～56円台だった。原油コストの値上がりを受け、全般的な値上がりが続いた。この結果、前週ほどではないものの、各社の卸価格はいずれも上方改定となった。

EMGマーケティングは19日、21日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、ガソリン、灯油を2.5円、残る油種を2.0円引き上げると通知した。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

今週の原油コストも値上がり、製品スポット市況も、陸上物、海上物、先物いずれも値上がりが続いた。週間のガソリン販売量は100万KLをやや下回ったが、3週続けて前年同期は上回った。

2月19日～2月25日適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格（2月10日～2月16日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値）は、ガソリンが4.3円、軽油は4.1円、灯油は4.2円の値上がりだった。一方、東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが3.0円、軽油は4.5円、灯油は2.8円の値上がりだった。また先物価格は、ガソリンが2.3円、軽油は2.2円、灯油は2.3円の値上がりだった。

原油価格の値上がりを受け、先週は先物主導だったが、今週は海上、陸上物の上げ幅が大きかった。

来週の大手元売の卸価格は、2.0円から5.0円の値上げだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)　（単位：円/㍑）

[陸上ローリー4地区平均]		今週　(2/10 ~ 2/16)	前週　(2/3 ~ 2/9)	前週比
スポット価格	レギュラー	53.5	49.2	▲ 4.3
	灯油	52.2	48.0	▲ 4.2
	軽油	48.7	44.6	▲ 4.1

(TOCOM)　（単位：円/㍑）

[期近物/終値]〔平均〕		今週　(2/10 ~ 2/16)	前週　(2/3 ~ 2/9)	前週比
先物価格	レギュラー	55.7	53.4	▲ 2.3
	灯油	55.5	53.2	▲ 2.3
	軽油	54.9	52.7	▲ 2.2

※上記価格は税抜き価格

参考値　(2/10～2/16実績値)　（単位：円/㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 4.3	▲ 2.3	▲ 3.3
灯油	▲ 4.2	▲ 2.3	▲ 3.3
軽油	▲ 4.1	▲ 2.2	▲ 3.1
A重油	▲ 3.2		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

2月16日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.9円値上がりの135.4円、軽油も1.5円値上がりの115.9円、灯油も0.9円値上がりの82.1円だった。ガソリン・軽油は、30週振りの値上がり、灯油も30週振りの値上がりだった。値上がりは、昨年7月14日以来。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは41都道府県、横ばいは2県、値下がりは4県だった。

沖縄県を除く都道府県別のガソリンの全国最安値は、岡山県（前週比2.6円高）で131.0円、埼玉県（同2.6円高）が131.3円で続いている。最高値は鹿児島県（同1.1円高）と高知県（同横ばい）の143.9円だった。

原油価格が値上がり、為替も円安であったが、原油コストは先週ほどではないが値上がりした。卸価格は2.0円から5.0円の値上げで、原油コスト、製品市況の値上がりに加え、元売の卸価格も2週連続で引き上げとなったが、2週分の卸価格引き上げ幅ほどには小売価格が上昇していないことから、来週の小売価格も値上がりが予想される。

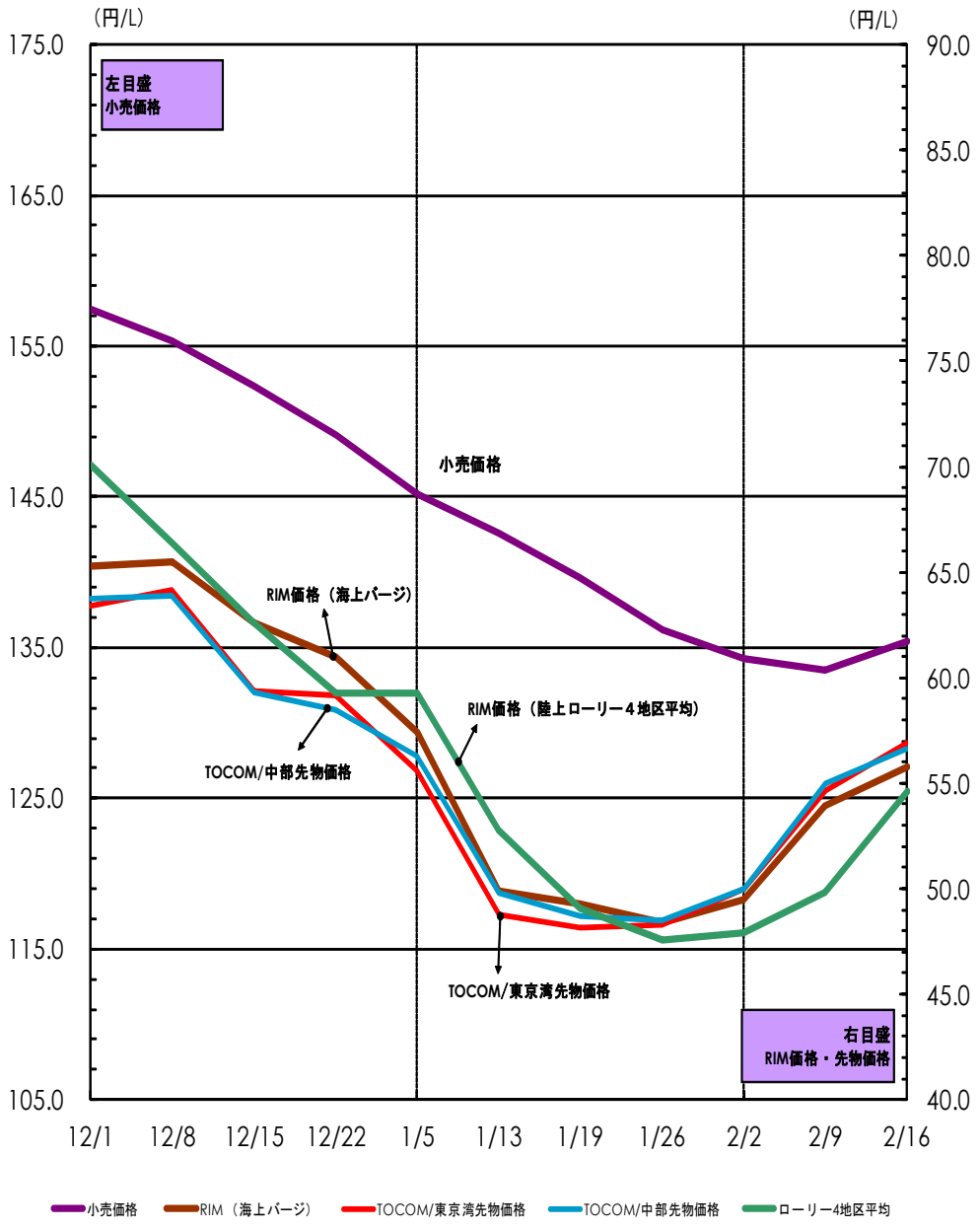
（単位：円/㍑）

（資工庁公表）[週動向]		今週　(2/16)	前週　(2/9)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	135.4	133.5	▲ 1.9	08/8/4	185.1
	灯油	82.1	81.2	▲ 0.9	08/8/11	132.1
	軽油	115.9	114.4	▲ 1.5	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2014/12/1 ～ 2015/2/16)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（http://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2014第45号）の公表は、2/27（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（平成26年6月末現在）は、9月30日（火）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年4月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。